

専門科目

(言語聴覚障害コース開講)

【科目名】		臨床心理学		【担当教員】 和田 剛宗 (メールアドレス) y. wada@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 11:00～13:30 (月曜日～木曜日)
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s139	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	8	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 言語聴覚士をめざす上で必要な心の課題や疾病について理解を深めてください。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験・レポートのフィードバック方法：個別に対応します。担当教員へ連絡してください。				
【講義概要】 (目的) ●対象者の抱える臨床心理学的な課題と適切な介入を理解する。 ●当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。 (方法) 講義形式のなかで、その都度テーマについて積極的なディスカッションを求めます。				
【一般教育目標 (GIO)】 対象者の抱える臨床心理学的な課題に適切に介入できるよう、心の課題を臨床的に理解する。				
【行動目標 (SB0)】 ●臨床場面で遭遇する心の課題や疾病を説明できる。 ●心の課題や疾病への介入の実際と限界を踏まえて、適切な心理支援を考えられる。				
【教科書・リザーブドブック】 テキストとなるプリントを配布します。				
【参考書】 下山晴彦, 中嶋義文, 鈴木 伸一, 花村 温子, 滝沢龍, 公認心理師必携 精神医療・臨床心理の知識と技法, 医学書院, 3,465円(税込み)				
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ●成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ●成績評価はレポート80%, 講義内でのディスカッション20%で評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力			80					80
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	●イントロダクション：臨床心理学 ●人格・性格めぐる臨床的深化：類型論と特性論	講義 discussion	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	30
2	●精神疾患との関連における臨床的深化1 ・統合失調症 ・気分(感情)障害	講義 discussion	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	30
3	●精神疾患との関連における臨床的深化2 ・神経症性障害 ・アルコール使用障害	講義 discussion	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	30
4	●精神疾患との関連における臨床的深化3 ・高齢者と認知症	講義 discussion	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	30
5	●査定やリハビリテーションにおける臨床的深化1 ・知能検査人格検査	講義 discussion	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	30
6	●査定やリハビリテーションにおける臨床的深化2 ・職場におけるメンタルヘルス	講義 discussion	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	30
7	●臨床心理学的支援とその課題1 ・傾聴・支持的面接の技法	講義 discussion	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	30
8	●臨床心理学的支援とその課題2 ・心の支援に求められるもの	講義 discussion	レポート作成にむけた 問題意識・課題の整理	30

【科目名】生涯発達心理学		【担当教員】藤澤 和子
【授業区分】専門科目	【授業コード】s140	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	fujisawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 月~金 10:00-16:00
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 事前に指定教科書の次の講義の頁を読む。前講義の復習をする。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。 試験・レポートのフィードバック方法:前講義の確認テストを毎時間実施し、解答時に解説する。		
【講義概要】 (目的) 1. 生涯発達の基本的な考え方や、乳幼児から老年期までのそれぞれの時期の発達のしくみと様相を理解する。 2. 各発達段階で生じやすい問題や障害を知り、その予防や発達支援への認識を持つ。 当該科目と学位授与方針等との関連性:専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を養う。 (方法) 乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の時期ごとに特徴や生じやすい問題や障害をとらえ、人がどのように発達し、変化していくかについて基本的な考え方や知見を解説する。乳幼児期については動画を用いて理解を深める。		
【一般教育目標 (GIO)】 乳幼児期～老年期に至るまで、生涯の各ステージにおける発達の概要と克服すべき課題を知る。		
【行動目標 (SBO)】 各発達段階の認知、感情、対人関係、社会性などの特徴を理解し、生じやすい問題への予防や対応への認識を学ぶ。		
【教科書・リザーブドブック】 発達心理学 藤村宣之編著（ミネルヴァ書房）		
【参考書】 二宮克美/宮沢/大野木（著）「ガイドライン 生涯発達心理学」第2版，ナカニシヤ出版，2015年，2000円＋税		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 試験成績（80％）確認テスト（20％）で評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	40	10						50
	思考・推論・創造の力	40	10						50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生涯発達心理学の基礎 生涯発達とは？/発達の規定要因/発達理論	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。	30
2	胎児期・乳児期：知覚の発達 乳児期：認知、言語の発達	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
3	乳児期：人との関係の始まり	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
4	幼児期：今ここの世界からイメージとことばの世界へ 幼児期：自己の育ちと他者との関係	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
5	児童期：思考の深まり 児童期：友人との関わりと社会性の発達	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
6	青年期：自分らしさへの気づきと模索 青年期：他者を通して自分を見る	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
7	成人期前期：家庭と仕事 成人期後期：成熟と中年期の危機	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
8	老年期：人生の振り返りと心理的ケア	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論	講義 一部演習	指定教科書p. 1-14	20
2	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去 汎化と弁別	講義	指定教科書p. 24-35	20
3	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ 実験神経症 行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 36-42	20
4	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例 オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p. 43-64 指定教科書p. 149-154	20
5	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p. 64-74	20
6	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 74-92	20
7	社会的学習 ・社会的学習とは何か 模倣学習 観察学習	講義	指定教科書p. 125-134	20
8	社会的学習 ・攻撃行動 罰の効果 いじめの発生	講義	指定教科書p. 134-144	20
9	社会的学習 ・自己効力感 (セルフ・エフィカシー) 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p. 144-148	20
10	技能学習 ・学習曲線 結果の知識 練習条件	講義 一部演習	指定教科書p. 93-102	20
11	技能学習 ・技能の記憶 技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p. 102-124	20
12	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p. 175-190	20
13	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能	講義	指定教科書p. 184-199	20
14	言語障害への支援 ・失語症 ・発達障害	講義 ビデオ教材使用		20
15	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用 まとめ	講義	指定教科書p. 149-174	20

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	感覚Ⅰ 感覚の種類、感覚の範囲と感度	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
2	感覚Ⅱ 感覚の物理量と心理量 感覚の順応・対比・加重	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
3	知覚・認知Ⅰ 色彩知覚、奥行き知覚、図と地	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
4	知覚・認知Ⅱ 運動の知覚、知覚の恒常性、運動の協応	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
5	知覚・認知Ⅲ 認知地図、対人認知、感覚遮断	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
6	知覚・認知Ⅳ 注意、認知の枠組み	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
7	まとめ 国試過去問にみる「感覚・知覚・認知」	講義 一部演習	第1～6回目までの知識の整理	30
8	記憶Ⅰ 記憶過程、記憶の分類、短期記憶、 ワーキングメモリ	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
9	記憶Ⅱ 長期記憶、顕在記憶・潜在記憶、展望記憶	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
10	記憶Ⅲ 忘却と記憶の変容、ヒューマンエラー	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
11	まとめ 国試過去問にみる「記憶」	講義 一部演習	第8～10回目までの知識の整理	30
12	思考Ⅰ 演繹的推論、帰納的推論	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
13	思考Ⅱ 問題解決 思考障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
14	言語 言語使用、言語獲得、言語と思考 言語障害とその支援	講義 一部演習	復習(要点の整理)	15
15	認知の障害とリハビリテーション まとめ 国試過去問にみる「思考」	講義 一部演習	第12～15回目までの知識の整理	30

【科目名】		心理測定法		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	2-14-0485-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:30, 他研究室在室時	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で医師の指示の下で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等の評価に従事してきた経験から、言語及び臨床心理・神経心理検査等の数値が意味するものについて講じます。言語聴覚障害コースの学生にとっては、国家試験出題基準の指定科目です。 本科目の内容は、心理学で用いられている基本的な統計手法の知識、つまり種々の心理事象の数量的記述の基本的な考え方を学んでいきます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
講義資料は全受講生に配布します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照してください。 義時間内で随時、簡単な実験及び基本的な心理統計処理を演習形式で実施して、理解を深めていきます。 この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。 この科目の学修には統計学の基本的知識が必須ですので、よく復習しておいてください。 試験結果・レポート・授業で実施した実験/心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。					
【講義概要】					
(目的)					
心理学における数量の性質を理解し、目的に合致したデータ収集法及び適切なデータ解析法を学ぶ。 講義および演習を通じて、1) 科学的手法に基づいてデータを収集するためにはどのような測定が必要となるのか、2) その得られたデータに対してどのような統計的処理が適用可能であるのか等を学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針との関連性;専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
(方法)					
心理学で用いられている実証的な研究方法について紹介していく。 人間の行動・態度・人格を計量的に測定するとはどういうことなのかを具体的に概説し、さらに臨床現場で一般的に用いられている検査法の基本についても説明し、得られたデータの意味を正しく解釈できるように進めていく。 毎回、各手法を実際に体験学習して、その理解を深めていく。 言語聴覚障害コースの学生には、国家試験関連問題を課して、キーワードの理解を深めていく。					
【一般教育目標 (GIO)】					
1) 心理学で用いられる測定法や評価法に関する基本的な知識を身につける。 2) 臨床現場で用いられる種々の検査法における数量的特性について理解する。 3) 心理学的データの基本的な扱い方及び解釈を習得すると同時に、その限界についても知る。					
【行動目標 (SBO)】					
1) 授業に毎回出席し、与えられた課題に主体的に取り組める。 2) 心理測定法の特性を理解し、どのような場合にどの検査を用いたらよいかを適切に選択できる。 3) 科学的 (客観性、再現性のある) 手法に基づくデータ収集法を学ぶ。 4) 得られたデータに対してどのような統計的処理が適用可能であるのかを理解できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
特に指定せず。原則、毎回プリントを配布します。 言語聴覚障害コースの学生は「言語聴覚士国家試験出題基準」の「V心理学_2心理測定法」を随時確認すること。					
【参考書】					
1) 山田弘幸 (編・著) / 言語聴覚士のための心理学 : 第3章「心理学的測定」 / 医歯薬出版 / 定価 4,320円 (税込) 2) 大山正他著 / コンパクト心理学ライブラリ 12「心理学研究法」 / サイエンス社 / 定価 2,310円 (税込) 3) 市川伸一編著 / 新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」 / サイエンス社 / 定価 2,835円 (税込)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 心理測定法の基本知識につき、定期試験を実施する。 出席点は評価に含みません。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	30						100
評価 指標	取り込む力・知識	40	20						60
	思考・推論・創造の力	20	10						30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10							10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	心理測定法とは	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
2	測定の水準と変数 データ収集法	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
3	基礎的な心理統計Ⅰ 記述統計量：代表値と散布度	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
4	基礎的な心理統計Ⅱ 推測統計：母集団と推定 確率分布と正規分布	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
5	基礎的な心理統計Ⅲ 関係の測度 (散布度と相関)	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
6	基礎的な心理統計Ⅳ 統計的仮説検定 (統計的有意性と偶然) 平均の差の検定	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
7	テスト理論Ⅰ 歴史的背景	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
8	テスト理論Ⅱ 信頼性と妥当性 「標準テスト」の意味	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
9	テスト理論Ⅲ 基準と換算点 「IQ数値」の評価法	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
10	精神物理学的方法Ⅰ 刺激閾、弁別閾、主観的等価点	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
11	精神物理学的方法Ⅱ 調整法、極限法、恒常法	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
12	精神物理学的方法Ⅲ 恒常誤差：測定値の誤りと偏り	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
13	尺度構成法Ⅰ 直接法：マグニチュード推定法	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
14	尺度構成法Ⅱ 間接法：評定尺度法	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
15	まとめ 国試過去問に見る「心理測定法」を説明し、 要点 (キーワード) を整理する。	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	30		50					80
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	医療の歴史と倫理問題の提起	講義		60
2	医療者と患者の関係	講義		60
3	医療倫理と原則	講義		60
4	健康科学概論	講義		60
5	人間機能・形態学概論	講義		60
6.	人間疾病・治療学概論Ⅰ	講義		60
7	人間疾病・治療学概論Ⅱ	講義		60
8	社会・環境人間健康学概論	講義		60

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			40					40
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力							20	20
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	人体の構成と細胞、組織	講義	講義内容の復習	60分
2	骨格系と筋系	講義	講義内容の復習	60分
3	神経系	講義	講義内容の復習	60分
4	循環器系	講義	講義内容の復習	60分
5	呼吸器系	講義	講義内容の復習	60分
6	消化器系	講義	講義内容の復習	60分
7	泌尿生殖器系と内分泌系	講義	講義内容の復習	60分
8	発生	講義	講義内容の復習	60分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	60		5					65
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	興奮性組織 (神経・筋)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床へ の展開を考え、レポートにまとめ る。	90分
2	体液、体液の循環 (体液、血液、心臓、血液循環、循環調節)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床へ の展開を考え、レポートにまとめ る。	90分
3	呼吸 (呼吸、ガス交換、呼吸の調節)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床へ の展開を考え、レポートにまとめ る。	90分
4	感覚機能	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床へ の展開を考え、レポートにまとめ る。	90分
5	運動機能	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床へ の展開を考え、レポートにまとめ る。	90分
6	自律機能、脳と行動 (情動、睡眠、学習、言語)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床へ の展開を考え、レポートにまとめ る。	90分
7	消化と吸収	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床へ の展開を考え、レポートにまとめ る。	90分
8	口腔生理学 (口腔感覚、顎運動、咀嚼、嚥下、唾液)	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の 知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床へ の展開を考え、レポートにまとめ る。	90分

【科目名】		病理学		【担当教員】	池上 喜久夫
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s147	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 平日木曜以外の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
病理学は基礎医学の学問として全員受講すること。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・解剖学、生理学の知識を基盤としているため、これらの科目を受講していることが望ましい。					
・小テストを返却後、解答の解説を行います。					
・試験問題（再試験問題除く）は返却します。					
・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学である。病理学は組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。本講義では、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問を学ぶ。特にリハビリテーションの対象となる疾患については踏み込んで学修する。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
スライドや配布資料、教科書などを用いて講義を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・疾病の一般的变化を理解できる。					
・病理学的所見から病態を推測することができる。					
・疾患の構造基本単位が、遺伝子、蛋白質、細胞、組織、器官、そして個体の階層にあり、相互に密接な関連のあることを理解する。					
【行動目標 (SBO)】					
病因によって退行性・進行性病変、代謝異常、循環障害、免疫・炎症・感染症、腫瘍、先天異常など、違った疾病を発症することを解説する。					
【教科書・リザーブドブック】					
教科書：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 病理学 医学書院 4,968円					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。					
・成績評価は、記述式試験100%とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	病理学の概要、病因論	講義	復習	30
2	退行性病変、進行性病変	講義	復習	30
3	代謝異常	講義	復習	30
4	循環障害	講義	復習	30
5	免疫	講義	復習	30
6	炎症、感染症	講義	復習	30
7	腫瘍	講義	復習	30
8	老化・先天異常・奇形	講義	復習	30

【科目名】小児科学		【担当教員】押木 利英子	
【授業区分】専門科目	【授業コード】s148	(メールアドレス) oshiki@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月、水、木 13:30～17:00	
【開講時期】前期	【選択必修】選択		
【単位数】1	【コマ数】8コマ		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・教科書「小児科学」を予習しておくこと (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義には積極的に理解するよう努力すること ・グループ課題について積極的に情報収集を行うこと ・試験結果は必要に応じて解説を行う ・レポートは他に支障のない限り返却する			
【講義概要】 (目的) 患者に対して聴覚言語士として療育を行うに必要な基礎知識を理解する必要がある。小児科学や小児リハビリテーションについて解説し、その重要性を理解することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性；A1,2 当該科目と学位授与方針等との関連性；S2 (方法) ・主として教科書と一部の配布資料を使用して講義を行う。 ・複数回、グループ課題の取り組みを行い、グループ発表を実施する。			
【一般教育目標 (GIO)】 ・言語聴覚士が治療を行うに必要な小児科学の基礎知識を修得する。			
【行動目標 (SB0)】 1) 小児の成長・発育・発達について説明できる。 2) 胎児期・周産期・新生児期の定義とその問題について説明できる。 3) 各種疾患の説明と小児リハビリテーションの概要が説明できる。 4) 療育体制とその意問題点について説明できる。			
【教科書・リザーブドブック】 富田豊編集「小児科学」第5版 医学書院 2018年 4200円＋税			
【参考書】 ・特になし ・必要に応じて参考資料（プリント）を配布する。			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・出席点は含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験及びレポート・発表点により総合的に行う。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		20	10				100
評価指標	取り込む力・知識	60		10					70
	思考・推論・創造の力	10							10
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
第1回	小児科学概論 1) 小児の成長・発育・発達 2) 栄養と摂食 3) 小児保健	講義	予習：教科書P1～27を読む	30分
第2回	小児の発達 1) 粗大運動発達 (腹臥位、背臥位、座位、立位)	講義	予習：配布資料を読む	30分
第3回	小児の発達 2) 巧緻運動発達 3) 言葉の発達 4) 遊びの発達	講義、演習	予習：配布資料を読む *事前に提示された課題を学習し、まとめる	90分
第4回	新生児・未熟児疾患 1) 胎児期・周産期・新生児期の定義と分類 2) 新生児の評価と問題 3) 代表的な中枢神経障害とリハビリテーション	講義	予習：教科書P38～56を読む	30分
第5回	先天異常と遺伝病 1) 遺伝と病気 2) 染色体異常と先天奇形 3) 代表的な疾患とリハビリテーション	講義	予習：教科書P58～68を読む	30分
第6回	神経・筋・骨系疾患 1) 脊髄性疾患 2) 末梢神経性疾患 3) 筋疾患 4) 骨・関節疾患	講義	予習：教科書P108～118を読む	30分
第7回	発達遅滞を伴う疾患 1) 脳性麻痺 2) 知的障害・精神遅滞 3) 言語発達遅滞発達障害	講義・演習	予習：配布資料を読む *事前に提示された課題を学習し、まとめる	90分
第8回	重症心身障害児 1) 定義およびその問題 2) 療育体制 まとめ	講義・演習	教科書P213～218を読んでおくこと *学習したノート、資料を整理する	90分

【科目名】耳鼻咽喉科学		【担当教員】高橋 圭三	
【授業区分】専門科目	【授業コード】s149	(メールアドレス) takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 平日木曜以外の16：50～	
【開講時期】後期	【選択必修】選択		
【単位数】1	【コマ数】8		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 耳科学、鼻科学、咽頭科学を学び、各病態について理解する。耳科学では、平衡感覚に関連する解剖、生理、めまいや眼振などについても理解を深める。鼻科学や咽頭科学でも、解剖・生理・病態を学ぶ。 この科目を履修するには、聴覚医学を修得していることが望まれます。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・小テストを返却後、解答の解説を行います。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
【講義概要】 (目的) 耳鼻咽喉科学領域（耳科学・鼻科学・口腔科学・咽喉科学）の障害で耳鼻咽喉科学領域の各器官の解剖（構造）・生理（機能）、さらに病態生理を理解することを目的とする。また各論では各疾患毎の病態生理、そしてそれらに対する検査やリハビリテーションなどに関しての言語聴覚士として必要な事項について学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う (方法) 耳鼻咽喉科学領域について講義を通して学ぶ。また各論では各疾患毎の病態生理、検査やリハビリテーションなどに関して学習する。			
【一般教育目標 (GIO)】 ・耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能・病態について理解を深める。 ・各疾患の病態生理を理解し、検査やリハビリテーションなどについて学ぶ。			
【行動目標 (SBO)】 ・耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能を説明できる ・各疾患の病態生理を理解し、それに関わる検査を説明できる			
【教科書・リザーブドブック】 特にありません。			
【参考書】 鳥山 稔・『言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学』医学書院，2002 年．¥3,990			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、記述式試験100％とする。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚系の機能構造病態の確認	講義	復習：P. 4～129	50
2	外耳の病態	講義	復習	30
3	中耳の病態	講義	復習	30
4	内耳の病態	講義	復習	30
5	後迷路～中枢の病態 小テスト	講義	復習	30
6	前庭、三半規管の機能構造	講義	復習	30
7	めまい、眼振	講義	復習	30
8	鼻科学	講義	復習	30

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70	20					10	100
評価 指標	取り込む力・知識	70	20						90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	創傷治癒 遊離皮弁、有茎筋皮弁、遊離組織移植	講義	予習：教科書第1章「損傷・創傷治癒」第2章「組織移植術」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
2	頭頸部外科手術に伴う障害 瘢痕とケロイド	講義	予習：教科書第7章「頭頸部」5章「瘢痕とケロイド」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
3	顔面外傷・熱傷	講義	予習：教科書第4章「損傷および創傷」「熱傷」「その他の外傷」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
4	潰瘍 顔面神経麻痺	講義	予習：教科書第6章「難治性潰瘍」「褥瘡」第7章「顔面神経麻痺」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
5	先天異常	講義	予習：教科書第3章「先天異常総論」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
6	更新口蓋裂	講義	予習：教科書第3章「口唇・口蓋」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
7	更新口蓋裂以外の頭蓋顔面奇形	講義	予習：教科書第3章「頭蓋・顔面」を読んでまとめておくこと。 復習：小テストの問題を見直してその内容を理解すること。	220分
8		講義	予習：これまで学習した教科書の内容を見直しておくこと。 復習：これまでの小テストの問題を見直してその内容を深く理解すること。	220分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語神経学入門Ⅰ 神経コミュニケーション障害の研究における最近の功労者	講義 課題解決型学習	予習・復習	40分
2	言語神経学入門Ⅱ 言語に対する脳科学の発展	講義 課題解決型学習	予習・復習	40分
3	神経系の構造Ⅰ コミュニケーションにおけるヒトの神経系、脳の保護と栄養摂取	講義 課題解決型学習	予習・復習	40分
4	神経系の構造Ⅱ 末梢神経系 脳への血液供給 神経構造の一般原理	講義 課題解決型学習	予習・復習	40分
5	発語と聴覚の神経感覚機構 体性感覚 口腔感覚の解剖学 視覚系	講義 課題解決型学習	予習・復習	40分
6	発語の神経運動支配 錐体路系 皮質延髄路 下位および上位運動ニューロン	講義 課題解決型学習	予習・復習	40分
7	脳神経Ⅰ 脳神経の起源 嗅覚と視覚の脳神経	講義 課題解決型学習	予習・復習	40分
8	脳神経Ⅱ 言語と聴覚のための脳神経 脳神経の協調：嚥下の働き	講義 課題解決型学習	予習・復習	40分

【科目名】		音声医学		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s152	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	a. satou@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 平日12時40分～13時30分 (火曜除)	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
大学院リハビリテーション研究科に在籍しているもの。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
発声発語器官の構造と機能、神経系の働きについて基本的な知識を有していることが望ましい。					
【講義概要】					
(目的)					
人のコミュニケーション活動に重要な位置を占める音声言語器官についてその解剖、生理、病理を学ぶ。					
(方法)					
座学を中心に、適宜発言、討議を求める。 必要に応じてレポート課題を課すことがある。					
【一般教育目標 (GIO)】					
音声言語に関する医学的側面を理解し、言語聴覚療法の基礎的知識として活用することができる。					
【行動目標 (SB0)】					
発声器官の解剖、生理、神経基板を理解し、説明することができる。 音性障害をきたす疾患を理解し、説明することができる。 音性障害の評価と治療について理解し、説明することができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
適宜資料やプリントを配布する。					
【参考書】					
大森孝一ら編集 『言語聴覚士テキスト第3版』 医歯薬出版 4200円+税 藤田郁代監修 『標準言語聴覚障害学：発声発語障害学第2版』 医学書院 5000円+税					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポートを中心に、適宜設問を提示し、発言力など学修に対する姿勢も考慮して評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			20	60				20	100
評価 指標	取り込む力・知識		20						20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			20					20
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	声の特性	講義、演習	予習、復習 人のコミュニケーション活動につい ての基礎知識を調べておくこと。	150分
2	発声発語器官の構造と機能：口腔、咽頭	講義、演習	予習、復習 発声発語器官の解剖についての基礎 知識を調べておくこと。	150分
3	発声発語器官の構造と機能：喉頭	講義、演習	予習、復習 発声発語器官の解剖についての基礎 知識を調べておくこと。	150分
4	発声発語器官の構造と機能：鼻腔、気管	講義、演習	予習、復習 発声発語器官の解剖についての基礎 知識を調べておくこと。	150分
5	発声発語器官の構造と機能：神経系の制御	講義、演習	予習、復習 神経系の働きについての基礎知識を 調べておくこと。	150分
6	音性障害をきたす疾患	講義、演習	予習、復習 耳鼻咽喉科学についての基礎知識を 調べておくこと。	150分
7	音性障害の評価と治療	講義、演習	予習、復習 音声障害学についての基礎知識を調 べておくこと。	150分
8	無喉頭音声、気管切開	講義、演習	予習、復習 口腔外科学についての基礎知識を調 べておくこと。	150分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	身近な音に関する知識 音の高さの聴覚範囲 聴覚器官の全体像	講義	復習：P. 4～9、配布資料	30
2	聴器の構造と機能 外耳の構造と機能	講義	復習：P. 4～9、配布資料	30
3	聴器の構造と機能 中耳の構造と機能	講義	復習：P. 16～17、配布資料	30
4	聴器の構造と機能 内耳の構造と機能	講義	復習：P. 18～29、配布資料	30
5	聴器の構造と機能 後迷路と中枢	講義	復習：P. 18～29、配布資料	30
6	難聴の種類（伝音難聴） 純音聴力検査、オーディオグラム	講義	復習：P. 42～45	30
7	難聴の種類（感音難聴、混合難聴） 純音聴力検査、オーディオグラム	講義	復習：P. 42～45	30
8	聴器の病態・難聴の原因 小テスト	講義 小テスト	復習：P. 16～21、P. 74～129	30

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			50	50					100
評価 指標	取り込む力・知識		25	25					50
	思考・推論・創造の力		25	25					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語学とは何か，S Tが言語学を学ぶ目的 言語の一般的特徴（諸性質と諸単位 日本語学と国語学の違い	講義	復習	30分
2	音声学復習（１）：声や構音生成の器官	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
3	音声学復習（２）：I P A表記	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
4	音韻論（１）：音素と音韻特徴，音韻規則，モー ラ（拍），音節およびその変化	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
5	音韻論（２）：超文節の特徴	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
6	文法論：形態論（１） 形態素と単語（有標・無 標），接頭辞，接尾辞，連濁，異形態・形態音韻論	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
7	文法論：形態論（２） 品詞とその分類，孤立 語・屈折語，プロセス（派生・複合・屈折）形態 論	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
8	文法論：形態論（３） 日本語形態論（単語、複 合・接合語、活用），子音語幹動詞，母音語幹動 詞	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
9	文法論：統語論（１） 文構造分析，生成論，語 順，単文の構造（格の理解・N項述語・多重主語 文）	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
10	文法論：統語論（２） 文の機能，統語現象 （ヴォイス・アスペクト・モダリティ，その他の 否定・取り立て・トピック・副詞），	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
11	文法論：統語論（３） 日本語の特質，文字（漢 字と仮名），敬語，語種	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
12	意味論：意味と意義，意義記述，意義体系概念マ トリックス（上位概念と下位概念）	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
13	意味論：意義の諸相（類義語と対義語），比喩 （暗喩・直喩），共起制限	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
14	意味論：語用論，関連性理論	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分
15	言語聴覚症状の言語学的視点	講義・確認テス ト・ディスカッ ション	復習	30分

【科目名】音声学		【担当教員】道関 京子
【授業区分】専門科目	【授業コード】s155	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	kei.doseki@gmail.com
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー) 来学時
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・言語聴覚士の国家試験受験に必要な科目である。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・講義ごとに確認テストを行い、学習内容を確実にする。 ・遅刻・欠席・早退は学則に従う。 試験・レポートのフィードバック方法:講義内で解説、またコメントを付して返却する。		
【講義概要】 (目的) 日本語の音声を中心にして一般音声学の知識を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 国際音声字母（IPA）について学び、日本語音声をIPAで表記できることが重要な学習項目となる。続いて、母音の無声化、特殊音素の性質、モーラといった日本語音声の特徴について学習する。さらに、アクセントやイントネーション等の超文節素を理解し、日本語における超文節素の特徴についても学ぶ。理解しやすいようにプリント資料を使い講義を進める。また頻繁に講義内容の確認テストを行う。		
【一般教育目標(GIO)】 日本語の音声を中心に、音声がどのように生成され、どのように記述されるのかを知る。 記述方法として国際音声字母、音素、拍を学ぶとともに、障害によつて的確な発話記述を選び実施できるようにする。 【行動目標(SB0)】 ・日本語で使われる音声の音声記号が書ける。・日本語で使われる音声の調音方法、調音点がわかる。・IPAを理解する。・音韻論の初歩的知識を理解する。・超分節素がわかる。・日本語音声の特徴がわかる。・音声生成理論を理解する。・語音知覚の性質を理解する。		
【教科書・リザーブドブック】 斉藤純男著 『日本語音声入門』 三省堂		
【参考書】 適時指示する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・小試験や受講上の発言50％、レポート50％ ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		25	25					50
	思考・推論・創造の力			25					25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		25						25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	音声学とは何か：音声学の3部門	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
2	音声生成（発声発語）のメカニズムと器官の名称	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
3	音声生成（発声発語）のメカニズムと器官の名称 確認テスト		講義内容の復習	30分
4	音声生成様式を知る 国際音声字母による子音	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
5	音声生成様式を知る 国際音声字母による母音	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
6	日本語音を捉える IPA 音声表記 日本語簡易表記	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
7	日本語表記練習（50音，単語，単文，パラグラフ）	演習	講義内容の復習	30分
8	確認テスト	小テスト・講義・ディスカッション	テスト内容の復習	30分
9	脳内の音声：音韻論（音素，モーラ，音節）	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
10	音環境によって生じる現象	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
11	確認テスト	小テスト・講義・ディスカッション	テスト内容の復習	30分
12	超文節的素性（アクセント，イントネーションその他）日本語の特徴	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
13	音響音声学	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
14	音声学と言語聴覚臨床	講義 課題解決型学習	講義内容の復習	30分
15	まとめと確認テスト	小テスト・講義・ディスカッション	テスト内容の復習	30分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	40	10						50
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		10						10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語発達の概要と理論	講義	配布する資料、文献を読んでおく。	30
2	前言語期：音声知覚の発達	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	30
3	前言語期：コミュニケーション、発声行動の発達	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	30
4	前言語期～2歳：感覚運動的知能と象徴機能の発達	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	30
5	1～2歳：語彙獲得の発達	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	30
6	幼児期：文法獲得の発達	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	30
7	幼児期：談話能力・音韻意識の発達	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	30
8	学童期：読み書きと談話能力の発達	講義	配布する資料、文献を読んでおく。 前時間の講義を復習する。	30

【科目名】音響学		【担当教員】高橋 圭三
【授業区分】専門科目	【授業コード】s157	(メールアドレス)
【開講時期】後期	【選択必修】選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 平日木曜以外の16：50～
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・予習・復讐をしっかりと行うこと。8コマと少ないものの、1コマ1コマ非常に重要なため、欠席しないこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) ・小テストを返却後、解答の解説を行います。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。		
【講義概要】 (目的) 音の一般的性質を知るとともに、音声の基本的特徴について学び、国家試験に対応できる知識を習得する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う (方法) まず、音響学を学ぶうえで必要な基礎知識を復習する。 講義と演習による。		
【一般教育目標(GIO)】 音の物理学的側面を理解するとともに、母音の生成の仕方を知る。 音の種類とその構造（スペクトル）を理解する。 音をデジタル化する際の手順と問題点を理解する。 スペクトログラムを見て、母音、破裂音、摩擦音の音響学的な特徴を知り、区別ができる。		
【行動目標(SBO)】 音の基本的性質についての演算ができる。 母音と破裂音、摩擦音の音響学的性質を説明できる。 純音、周期的複合音、非周期的複合音のスペクトル構造を説明できる。 音のデジタル化に必要な手順を説明できる。 簡単なスペクトログラムが読める。		
【教科書・リザーブドブック】 吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』 海文堂		
【参考書】 ・青木直史 『ゼロからはじめる音響学』 講談社 ・坂本真一、蘆原郁 『音響学を学ぶ前に読む本』 コロナ社 ・今泉敏 『言語聴覚士のための音響学』 医歯薬出版		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・定期試験100%とする。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	音響学を学ぶ前の基礎知識 指数、速さ・時間・距離、単位の接頭語	講義	配付資料の復習をすること	15分
2	音入門 波形、周波数、周期、振幅、波長、音速	講義	配付資料の復習をすること	15分
3	音響スペクトル 純音、複合音、周期音、非周期音	講義	配付資料の復習をすること	15分
4	音の物理的特性 屈折、反射、吸音、干渉、うなり、 ドップラー効果	講義	配付資料の復習をすること	15分
5	音のデジタル化 標本化、量子化	講義	配付資料の復習をすること	15分
6	音声学 母音と子音	講義	配付資料の復習をすること	15分
7	音源フィルター理論 共鳴と母音の生成	講義	配付資料の復習をすること	15分
8	スペクトログラム 母音、摩擦音、破裂音、その他の音声の特徴	講義	配付資料の復習をすること	15分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚心理学入門 ・聴覚心理学とは ・聴野 ・聴覚閾値	講義	復習：配布資料	15分
2	強さと大きさ ・音の強さと大きさの関係 ・等感曲線	講義	復習：配布資料	15分
3	大きさの単位、強さの弁別 ・ゾーンとフォン ・強さの弁別	講義	復習：配布資料	15分
4	周波数と大きさ ・周波数と大きさの関係 周波数と高さ ・周波数と高さの関係	講義	復習：配布資料	15分
5	高さの単位 ・メル 周波数の弁別 ・周波数の弁別	講義	復習：配布資料	15分
6	マスキング ・マスキングの定義 ・マスキングの効果 ・臨界帯域	講義	復習：配布資料	15分
7	音の持続時間と聴覚 ・持続時間と可聴性 ・聴覚疲労と聴覚順応	講義	復習：配布資料	15分
8	聴覚のさまざまな知覚現象 ・マガーク効果 ・結合音 ・両耳聴など	講義	復習：配布資料	15分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			20	80					100
評価 指標	取り込む力・知識		20	40					60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			20					20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	我が国の社会保障制度の変遷とその特徴	講義	復習	20分
2	生涯を支える社会保障の全体像	講義	復習	20分
3	社会保険の仕組み	講義	復習	20分
4	年金制度の概要	講義	復習	20分
5	介護保険の現状と課題	講義	復習	20分
6	医療保険の概要	講義	復習	20分
7	公的扶助	講義	復習	20分
8	これからの社会保障のあり方	講義	復習	20分

【科目名】リハビリテーション概論		【担当教員】高橋 明美
【授業区分】専門科目	【授業コード】s160	(メールアドレス) a_takahashi@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月～金 8:30-18:00
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・リハビリテーションは、リハビリテーション専門職の学生にとり基本中の基本、不可欠な基礎知識の講義です。必ず全講義に出席してください。 ・この科目は実務経験者対応科目です。長年臨床経験がある理学療法士がリハビリテーションをトータルに教授します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) レポートについては、返却します。 予習も大事ですが、復習がさらに重要となります。前回の講義内容を十分復習してから受講してください。		
【講義概要】 (目的) リハビリテーションに対する正しい理解と知識を学習し、専門職種としての基本的な姿勢や考え方を身につけ、臨床の場で活用できるようにする。このことにより、多職種がリハビリテーションについて共通の価値観を修得し、多面的な支援の提供ができることを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。 (方法) テキストを用いて、体系的に学ぶよう講義を進めます。特に、“リハビリテーションとは何か”その本質に触れ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ることを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史的変遷、障害者と障害のレベル、障害の測定・評価法などの実例を提示して進めます。		
【一般教育目標(GIO)】 保健・医療・福祉に及ぶ広範囲なリハビリテーション分野を深く理解する。 【行動目標(SBO)】 1．リハビリテーションの理念、歴史的変遷について説明できる。2．障害の概念や分類について説明できる。3．リハビリテーションの過程について説明できる。4．各専門職の役割、チームアプローチについて説明できる。5．リハビリテーションを支える諸制度について説明できる。6．ICFに基づく障害の測定・評価方法について説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 真柄彰、他：メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ，リハビリテーション概論，理工図書，2017，¥4700（税別）		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 成績評価は、レポート、その他により総合的に評価する。 出席点は評価には含みません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価 指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1 前期	リハビリテーションの概念・理念、定義	講義 課題解決型学習	(予習) 指定教科書に目を通しておく (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp1-18)を読むこと	45
2 前期	健康と障害の概念、分類	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp19-30)を読むこと	45
3 前期	リハビリテーションの過程 チームアプローチ	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp69-80, 117-124)を読むこと	45
4 前期	リハビリテーションの諸段階、諸制度	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp81-98)を読むこと	45
5 前期	医療とリハビリテーション専門職、役割 理学療法概論	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	45
6 前期	作業療法概論	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	45
7 前期	言語聴覚概論	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	45
8 前期	リハビリテーション心理 レポート課題提示	講義 課題解決型学習	(予習) 前回の講義の復習 (復習) 講義で配布された資料、教科書(pp99-116)を読むこと	45

【科目名】		言語聴覚障害学総論		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmhS161	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 平日木曜以外の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶ。また、特に言語聴覚士に関する、言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理などについても学ぶ。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・ レポートはコメントを付して返却します。 ・ 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
【講義概要】					
(目的)					
言語聴覚士の職務内容や職業倫理、対象患者などの理解を深める。人間がコミュニケーションをとるための聴覚や発声・発語に関する生理学的側面、また記憶や思考といった高次脳機能に関する側面、さらにそれらの機能を障害することによる様々な言語障害に対する知識を包括的に学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
スライド、教科書を中心に講義を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】					
言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶ。また、特に言語聴覚士に関する、言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理などについても学ぶ。					
【行動目標 (SBO)】					
・ 言語聴覚障害の種類、対象、原因、援助方法を説明できる。 ・ 言語聴覚士に関する言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理について説明できる。 ・ 言語聴覚士に必要な態度について理解を深める。					
【教科書・リザーブドブック】					
藤田郁代 監修『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』 医学書院, 2010年 ¥5,000 (税別)					
【参考書】					
小松崎篤, 岩田 誠, 他『言語聴覚士テキスト』医歯薬出版, 第2版, 2011年. ¥3,000 (税別) 熊倉勇美, 種村純 編集『やさしく学べる 言語聴覚障害入門』永井書店, 2011年. ¥5,000 (税別)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・ 成績評価は、レポートの達成度80％、小テスト20％とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			20	80					100
評価 指標	取り込む力・知識		20	80					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士、言語聴覚障害とは	講義	復習	20
2	言語聴覚障害学の種類、対象、原因	講義	復習	20
3	言語聴覚士の歴史	講義	復習	20
4	言語聴覚療法とは	講義	復習	20
5	言語聴覚療法の流れ	講義	復習	20
6	言語聴覚士に関する法律	講義	復習	20
7	言語聴覚士に関する職業倫理	講義	復習	20
8	言語聴覚療法に関する映画鑑賞	映画鑑賞	なし	
9	言語聴覚療法に関する映画鑑賞	映画鑑賞 感想文作成	なし	
10	成人分野の言語聴覚療法	講義	復習	20
11	摂食嚥下障害	講義	復習	20
12	小児分野の言語聴覚療法	講義	復習	20
13	実際の言語聴覚療法	講義	なし	
14	実際の言語聴覚療法	講義	なし	
15	まとめ レポート作成	講義 レポート作成	なし	

【科目名】		言語聴覚障害診断学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s162	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 木曜以外平日16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
実際の言語聴覚療法を行うのに必要な事柄を学ぶ。 この科目を履修するには、言語聴覚学総論を事前に修得していることが望まれます。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・ レポートにコメントを付して返却します。 ・ 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
【講義概要】					
(目的)					
言語聴覚士が行う評価スキルを学ぶ。専門的な評価方法を円滑に行うための知識・技術を身につけることを目的とする。また言語障害を正確に評価するための診断法を学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う					
(方法)					
スライドを使ったものから、実際の演習も含めて講義を行う。					
【一般教育目標 (GIO)】					
・ 臨床に必要なマナー、服装、言葉使いを心がけることができる。 ・ 言語聴覚士の臨床活動を理解できる。 ・ 臨床観察眼を養うことの大切さを知る。					
【行動目標 (SB0)】					
・ 臨床に必要なマナー、態度を身につける。 ・ 言語聴覚士の臨床活動を、失語、高次機能障害、嚥下障害など各項目について理解する。 ・ 言語聴覚障害のみならず、対象者の抱えている問題点や悩みなどを理解する。					
【教科書・リザーブドブック】					
深浦 順一， 爲数 哲司，内山 量史著『言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編』建帛社，2017年 ￥3,672円（税込）					
【参考書】					
深浦順一．編集主幹『図解 言語聴覚療法技術ガイド』文光堂，2014年 ￥10,000（税別） 平野哲雄，他編『言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版』協同医書出版，2014年 ￥6,800（税別） 里宇明元監修『自信がもてる！リハビリテーション臨床実習』医師薬出版，2015年 ￥4600（税別）					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・ 成績評価は、レポートの達成度80％、課題の発表20％とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80	20				100
評価 指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			30					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				10				10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士が行う「評価」に必要なこと	講義	なし	
2	臨床の前に 臨床に必要なマナー、個人情報保護	講義	復習	20
3	面接技法	講義	復習	20
4	時期ごとの脳血管障害リハビリテーション リハビリテーションにおける各職種の役割	講義	復習	20
5	車椅子の使い方	演習	復習	20
6	言語聴覚療法の流れ スクリーニング	演習	復習	20
7	成人言語障害の評価法 失語症、高次脳機能障害	講義	復習	30
8	成人言語障害の評価法 運動障害性構音障害、嚥下障害	講義	復習	20
9	言語聴覚療法の評価・診断のまとめ方	講義	復習 p. 56-62	20
10	言語聴覚療法の評価・診断のまとめ方	講義	復習 p. 56-62	20
11	言語聴覚療法の実際 失語症	講義など	復習 p. 64-100	20
12	言語聴覚療法の実際 高次脳機能障害	講義など	復習 p. 101-151	20
13	言語聴覚療法の実際 構音障害	講義など	復習 p. 152-179	20
14	言語聴覚療法の実際 嚥下障害	講義など	復習 p. 180-210	20
15	言語聴覚療法の実際 まとめ	講義 レポート作成	なし	

【科目名】		言語発達障害学概論		【担当教員】	藤澤 和子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s163	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	2	【コマ数】	15		
(オフィスアワー) 月～金 10：00-16：00					
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
事前に関連文献を読む。前講義の復習をする。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
遅刻、欠席、早退は学則に従う。					
試験・レポートのフィードバック方法:提出物にコメントを付けて返却する。					
【講義概要】					
(目的)					
1．言語発達障害児に用いられる各種検査の理論と実施方法、評価、支援法を理解する。					
2．障害特性や発達に応じた指導方法や教材を知り、子どもたちが楽しんで指導を受けることができる技能と指導計画、評価する能力を養う。					
当該科目と学位授与方針等との関連性:専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。					
(方法)					
乳幼児から児童期の言語発達障害児への様々な言語・発達検査の概要と、有効な数種の指導方法を解説し、検査や指導、教材制作の演習を行なう。					
【一般教育目標 (GIO)】					
言語発達障害児への様々な言語・発達検査と指導方法について目的や概要や評価を説明できる。					
【行動目標 (SBO)】					
子どもたちの発達や障害特性に適した指導をするための方法を知り、教材を制作し、指導方法を考えることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学 言語発達障害学(第2版)、医学書院					
参考書の書籍や資料から適宜配布する。					
【参考書】					
藤澤和子：視覚シンボルによるコミュニケーション支援に関する研究、風間書店					
藤澤和子・川崎千加・多賀谷津也子・小安康子 企画 編集 制作：LLブック 旅行にいこう！、樹村房					
諸検査、指導に関連する資料。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。					
受講態度（30%）、試験成績（70%）で評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70						30	100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	30						10	40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	AAC(補助代替コミュニケーション) (1) AACの解説	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30
2	AAC(補助代替コミュニケーション) (2) シンボルの活用の解説と演習	講義 演習	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30
3	マカトン法 解説と演習	講義 演習	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30
4	TEACCHの解説と演習	講義 演習	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30
5	PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム) 解説と演習	講義 演習	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30
6	LLブックの解説と演習	講義 演習	資料を読んでおくこと。	30
7	ソーシャルトレーニングとペアレントトレーニングの解説と演習	講義 演習	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30
8	応用行動分析とインリアルルの解説	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30
9	乳幼児精神発達質問紙(津守式) 解説と演習	講義 演習	資料を読んでおくこと。	30
10	日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙 解説と演習	講義 演習	資料を読んでおくこと。	30
11	絵画語彙発達検査(PVT-R) 解説と演習	講義 演習	資料を読んでおくこと。	30
12	L-Cスケール(言語・コミュニケーション発達スケール)とDN-CAS認知評価システム 解説	講義	資料を読んでおくこと。	30
13	S-S法 解説と演習	講義 演習	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30
14	フロスティック視知覚検査 解説と演習	講義 演習	資料を読んでおくこと。	30
15	検査と指導方法のまとめ	講義	教科書の関連する頁と資料を読んでおくこと。	30

【科目名】		言語発達障害学各論		【担当教員】	藤澤 和子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s 164	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	fujisawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月~金 10：00-16：00	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
事前に指定した教科書の関連頁を読む。前講義の復習をする。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
遅刻、欠席、早退は学則に従う。					
試験・レポートのフィードバック方法:各言語発達障害の学習のまとめとして確認テストを実施し、解答時に解説する。					
【講義概要】					
(目的)					
1. 言語発達障害の概要と特徴を理解する。					
2. 自閉症スペクトラム障害、知的障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複障害の疾患概念、症状、評価・支援の基本を理解する。					
当該科目と学位授与方針等との関連性:専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。					
(方法)					
代表的な言語発達障害（自閉症スペクトラム障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複、知的障害）の疾患概念、症状、評価・治療の基本を概説する。障害理解のために事例の動画などを用いる。					
【一般教育目標(GIO)】					
自閉症スペクトラム障害、学習障害、特異的言語発達障害、注意欠陥多動性障害、脳性麻痺・重度重複、知的障害の疾患概念、症状、評価・治療について説明できる。					
【行動目標(SBO)】					
言語発達障害の概要とそれぞれの障害の原因や障害特性、指導や治療について理解して説明できる。					
【教科書・リザーブドブック】					
藤田郁代監修：標準言語聴覚障害学 言語発達障害学(第2版)、医学書院					
【参考書】					
石田宏代、大石敬子編集：言語聴覚士のための言語発達障害学、医歯薬出版					
河野俊寛：読み書き障害のある子どもへのサポート、読書工房					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。					
試験成績（80％）確認テスト（20％）で評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	20						100
評価 指標	取り込む力・知識	50	10						60
	思考・推論・創造の力	30	10						40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語発達障害とは 定義、諸理論	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。	30
2	自閉症スペクトラム障害（１） 定義、諸理論	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
3	自閉症スペクトラム障害（２） 障害特性・評価、支援方法	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
4	注意欠陥・多動性障害（１） 定義、障害特性	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
5	注意欠陥・多動性障害（２） 評価、支援方法	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
6	脳性麻痺・重度重複障害（１） 定義、障害特性	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
7	脳性麻痺・重度重複障害（２） 評価、支援方法	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
8	知的障害（１） 定義、原因	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
9	知的障害（２） 障害特性	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
10	知的障害（３） 評価、支援方法	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
11	学習障害（１） 定義、障害特性	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
12	学習障害（２） 評価、支援方法	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
13	特異的言語発達遅滞（１） 定義、障害特性	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
14	特異的言語発達遅滞（２） 評価、支援方法	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30
15	各障害についてのまとめ	講義	指定した教科書の関連頁を読んでおく。前講義の復習をする。	30

【科目名】		言語発達障害学演習		【担当教員】	藤澤 和子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s165	(メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
事前に検査に目を通しておく。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
遅刻、欠席、早退は学則に従う。					
試験・レポートのフィードバック方法:レポートにコメントを付けて返す。					
【講義概要】					
(目的)					
1. 言語発達障害の臨床で使用されている代表的な検査の理論と方法を理解して正しく実施できる。					
2. 検査結果の評価ができる。					
3. 評価をもとに適切な訓練計画を立てることができる。					
当該科目と学位授与方針等との関連性:専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を養う。					
(方法)					
代表的な知能検査と発達検査(新版K式発達検査、WISC-IV、KABCⅡ)の理論と方法を解説し、実際に用具を使って検査して結果を評価し、支援への活用を考える。					
【一般教育目標(GIO)】					
言語発達障害の臨床で用いられる検査の理論と実施方法を理解し、正しく実施し評価し、適切な支援方法を考えることができる。					
【行動目標(SBO)】					
検査結果から症例の評価と解釈症例に合った適切な訓練計画を立てることができる。					
【教科書・リザーブドブック】					
藤田郁代監修「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学第2版」医学書院					
参考書の中から必要な資料を配布する。					
【参考書】					
各種検査の実施、結果評価についての資料。					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。					
・レポート(70%)、受講態度(30%)で評価する。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				70				30	100
評価 指標	取り込む力・知識			20				10	30
	思考・推論・創造の力			30				10	40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力			10				10	20
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	新版K式発達検査（１） 概論、実施方法解説、実施	講義、演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	30
2	新版K式発達検査（２） 実施、評価	講義、演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	30
3	新版K式発達検査（３） 解釈	講義、演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	30
4	WISC-IV（１） 概論、実施方法解説、実施	講義、演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	30
5	WISC-IV（２） 実施、評価	講義、演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	30
6	WISC-IV（３） 解釈	講義、演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	30
7	KABC II（１） 概論、実施方法解説、実施	講義、演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	30
8	KABC II（２） 実施、評価、解釈	講義、演習	検査に目を通しておく、関連する資料を読んでおく	30

【科目名】		音声障害学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s166	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 平日木曜以外の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
基本的に言語聴覚障害コースの学生を対象とします					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・発声発語器官の解剖学・生理学・神経学、ならびに発声に関する音響学を理解していること。 ・小テストを返却後、解答の解説を行います。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
声の生成に関与する中枢神経系・末梢神経系およびそれに関連する各器官について、医学的知識とともに言語聴覚士が専門家として実施する訓練治療手技を身につけることを目的とする。					
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
(方法)					
呼吸と発声のメカニズム、病態、評価、治療法について、講義や演習を通して学ぶ。					
【一般教育目標(GIO)】					
・音声（発声）の仕組みを理解し、音声障害のほか、摂食・嚥下障害や運動障害性構音障害にも応用できる知識を修得する。 ・気管切開カニューレや無喉頭音声時の仕組みに関する知識を修得する。 ・音声障害に対する適切な聴覚的判定力と音声治療の施行技能を修得する。					
【行動目標(SBO)】					
・発声のメカニズムを詳細に説明できる。 ・発声の仕組みを動画としてイメージできる。 ・病的音声の評価法の種類と特徴について説明ができる。 ・音声（発声）障害の種類と原因について説明ができる。 ・音声（発声）障害に対して適切な治療法が選択でき、正しく指導できる					
【教科書・リザーブドブック】					
大森孝一編：言語聴覚士のための音声障害学．医歯薬出版，2015．					
【参考書】					
廣瀬 肇・『STのための音声障害診療マニュアル』インテリ出版，2008年．¥3,500（税別）					
荻安 誠・城本修編著『言語聴覚療法シリーズ14 改訂 音声障害』建帛社，2012年．¥3,100（税別）					
城本修，生井友紀子訳：実践音声治療マニュアル CD付き．インテルナ出版，2012．					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、記述式試験100％とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リエンテーション 発声器官の解剖・生理について 発声のメカニズムと声の特徴について	講義	予習：以前に学んだ声に関する授業 の内容を復習しておく 復習：テキストと授業中のノートの 確認	予習30分 復習30分
2	声の異常について 喉頭の疾患と医学的な分類について	講義	予習：テキストの該当単元を読んで おく 復習：テキストと授業集のノートの 再確認	予習30分 復習30分
3	声の評価、音声障害の診療について 言語聴覚士が行える検査と治療 耳鼻科医が行う検査と治療	講義	予習：テキストの該当単元を読んで おく 復習：テキストと授業集のノートの 再確認	予習30分 復習30分
4	音声障害の治療について 医学的治療法と保存的治療法 気管切開・人工呼吸器について	講義	予習：テキストの該当単元を読んで おく 復習：テキストと授業集のノートの 再確認	予習30分 復習30分
5	各種音声治療の実際① 問診による情報収集 声の衛生指導について	講義 演習	予習：テキストの該当単元を読んで おく 復習：テキストと授業集のノートの 再確認	予習30分 復習30分
6	各種音声治療の実際② 対症療法的治療法について 共鳴強調訓練について	講義	予習：テキストの該当単元を読んで おく 復習：テキストと授業集のノートの 再確認	予習30分 復習30分
7	各種音声治療の実際③ 発声機能拡張訓練について アクセント法について LSVTについて	講義	予習：テキストの該当単元を読んで おく 復習：テキストと授業集のノートの 再確認	予習30分 復習30分
8	喉頭摘出の音声リハビリテーション 喉頭の摘出と無喉頭音声について 無喉頭音声の訓練法について	講義	予習：テキストの該当単元を読んで おく 復習：テキストと授業集のノートの 再確認	予習30分 復習30分

【科目名】運動障害性構音障害学		【担当教員】佐藤 厚
【授業区分】専門科目	【授業コード】S167	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	a.satou@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】2	【コマ数】15	(オフィスアワー) 平日12時40分～13時30分 (火曜除)
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 大学院言語聴覚障害コースに在籍している者。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 適宜レポートなどを指示することがある。提出されたレポートは各自にフィードバックを行い、その後の学習に役立てる。		
【講義概要】 (目的) 神経疾患によるコミュニケーション障害の中に、運動障害性構音障害（dysarthria）を位置づける。dysarthriaを起こす機序を解剖、生理学的なメカニズムから理解させる。dysarthriaの評価・診断について学び、付随しやすい音声障害や摂食嚥下障害などとの関連性も踏まえて考えていく。さらに、治療手技を学び、評価から適切な治療を選択し、実践できる力を養う。運動訓練の原則や、対象者のdysarthriaのタイプ、障害受容、社会背景などあるゆる角度から対象者に適切な支援を考えることができるようにする。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 講義を中心に適宜演習、実習を行う。講義課程の中でレポートを課することがある。また、随時発言を求め、知識の確認を行う。		
【一般教育目標 (GIO)】 発声発語に関する神経系、運動器の構造と働きを理解し、運動障害性構音障害の種類、特徴、評価、治療をそれらに関連づけて理解できる。		
【行動目標 (SB0)】 運動障害性構音障害の種類と特徴をその障害されている神経系と関連づけて説明することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 藤田郁代監修・標準言語聴覚障害診断学 発声発語障害学（第2版） 医学書院 2015年 5,400円+税 西尾正輝・ディサースリア臨床標準テキスト 医歯薬出版 2007年 4,200円+税		
【参考書】 適宜指示する。		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 レポートを主体に、受講態度、発言力などを総合して評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力							20	20
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動障害性構音障害学概論	講義・演習	人の言葉の仕組みの復習を必ず行うこと。	150分
2	発声発語と神経・筋系の仕組み	講義・演習	神経系の構造の復習を必ず行うこと。	150分
3	発声発語器官の神経制御	講義・演習	発声発語器官の解剖の復習を必ず行うこと。	150分
4	運動障害性構音障害の原因疾患	講義・演習	神経系の疾患の復習を必ず行うこと。	150分
5	障害のタイプと特徴	講義・演習	運動系についての復習を必ず行うこと。	150分
6	発話特徴の抽出	講義・演習	発話特徴抽出の復習を必ず行うこと。	150分
7	運動障害性構音障害の評価法	講義・演習	標準ディサースリア検査の復習を必ず行うこと。	150分
8	運動障害性構音障害の治療法：運動機能に対するアプローチ	講義・演習	発声発語器官とその周辺の筋走行の復習を必ず行うこと。	150分
9	運動障害性構音障害の治療法：構音に対するアプローチ	講義・演習	口腔構音器官についての復習を必ず行うこと。	150分
10	運動障害性構音障害の治療法：代替コミュニケーション	講義・演習	ハイテクコミュニケーションエイドの復習を必ず行うこと。	150分
11	症例検討	講義・演習	講義の復習を必ず行うこと。	150分
12	症例検討	講義・演習	講義の復習を必ず行うこと。	150分
13	症例検討	講義・演習	講義の復習を必ず行うこと。	150分
14	症例検討	講義・演習	講義の復習を必ず行うこと。	150分
15	症例検討	講義・演習	講義の復習を必ず行うこと。	150分

【科目名】器質性構音障害学		【担当教員】佐藤 真由美
【授業区分】専門科目	【授業コード】s168	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	mizugame000@yahoo.co.jp
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 特になし (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験・レポートのフィードバック方法：コメントを付して返却する。		
【講義概要】 (目的) 器質性構音障害に関する症状、発生原因、評価および情報収集について学習する。異常構音に対する治療アプローチを理解する。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 器質性構音障害について理解を深め、ビデオ教材を活用しながら具体的症例を交え構音障害の症状や評価、治療法について学ぶ。		
【一般教育目標(GIO)】 器質・機能的構音障害学に関する基礎知識を習得する。 診断性を修得する。 訓練・指導計画を立案でき、訓練指導の実際を理解する。		
【行動目標(SBO)】 各種検査を模擬的に実施することが出来る。 検査結果をもとに所見を述べる事ができる。 治療方針を考察することができる。		
【教科書・リザーブドブック】 言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害 齊藤裕恵 編著 建帛社		
【参考書】		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	構音障害概説	講義	口腔構音器官の解剖	45分
2	構音検査の実際	講義	前回講義の復習	45分
3	必要な情報の収集法	講義	前回講義の復習	45分
4	器質性構音障害の検査・診断・評価	講義	前回講義の復習	45分
5	異常構音	講義	前回講義の復習	45分
6	鼻咽腔閉鎖機能の形態と原因	講義	耳鼻咽喉科学	45分
7	口腔顔面領域の異常と構音障害	講義	前回講義の復習	45分
8	総合的な治療方法と治療計画の立案	講義	前回講義の復習	45分

【科目名】機能性構音障害学		【担当教員】藤澤 和子
【授業区分】専門科目	【授業コード】s169	(メールアドレス) fujisawa@nur05.onmicrosoft.com (オフィスアワー) 月~金 10:00-16:00
【開講時期】前期	【選択必修】選択	
【単位数】1	【コマ数】8	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 事前に関連文献を読む。前講義の復習をする。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 遅刻、欠席、早退は学則に従う。 試験・レポートのフィードバック方法：コメントを付けて返却する。		
【講義概要】 (目的) 機能性構音障害の症状、検査による評価、訓練方法について理解し、実際に指導ができる基礎的能力を養う。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 正常に獲得される構音発達を知り、機能性構音障害のさまざまな症状を理解する。新版構音検査と音声サンプルを用いて構音の評価ができるように学習する。訓練の動画や体験により指導方法を学ぶ。		
【一般教育目標 (GIO)】 機能性構音障害の症状、検査、訓練について理解する。		
【行動目標 (SBO)】 機能性構音障害の検査をして評価し、訓練プログラムを立てることができる。		
【教科書・リザーブドブック】 適宜必要な資料を配布する。		
【参考書】 白坂康俊・熊田政信著：言語聴覚士のための機能性構音障害学 医歯薬出版株式会社 今井智子・加藤正子・竹下圭子・船山美奈子・山下夕香里著：新版構音検査 千葉テストセンター		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・試験70%、レポート30%		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		70		30					100
評価指標	取り込む力・知識	70		10					80
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	機能性構音障害の定義と症状。	講義	配付資料の復習	15
2	構音の発達と機能性構音障害の評価と訓練方法の概論。	講義	配付資料の復習	15
3	構音障害の聞き分け訓練。収録音声の聴取と記録。	講義 演習	配付資料の復習	15
4	機能性構音障害の評価（１） 新版構音検査の演習	講義 演習	配付資料の復習	15
5	機能性構音障害の評価（２） 新版構音検査の評価	講義 演習	配付資料の復習	15
6	機能性構音障害の治療（１） 症状別指導方法(単音・単語)	講義 演習	配付資料の復習	15
7	機能性構音障害の治療（２） 症状別指導方法（文章と日常会話）	講義 演習	配付資料の復習	15
8	機能性構音障害の治療（３） 子どもへの訓練教材や留意点	講義	配付資料の復習	15

【科目名】吃音		【担当教員】前新 直志
【授業区分】専門科目	【授業コード】s170	(メールアドレス)
【開講時期】前期	【選択必修】選択	maeara@iuhw.ac.jp
【単位数】1	【コマ数】8	(オフィスアワー) 来校時に対応
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 条件ではないが、発達心理学（言語発達学）、精神医学（臨床心理学）、カウンセリングに関する復習またはこれらの知識を有していることが望ましい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 積極的な姿勢で受講してほしい。 試験・レポートのフィードバック方法：コメントを付して返却します。		
【講義概要】 (目的) 吃音症は流暢性障害の代表的症状といえる。吃音症を中心にクラタリング（早口言語症）やその他の流暢性障害について、種類、発生機序、評価・診断および治療方法および心理社会的援助方法について学ぶ。評価・診断については、吃音検査法の概要を紹介すると共に、吃音症の症状特性に基づく多様な考え方や方法について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 本講義では、症状特徴（進展メカニズム、発達区分に応じた捉え方やアプローチの違い）の理解と関連症状との評価方法、合併疾患との関係や捉え方について、講義資料に沿って進めるが、種々の症状理解を補うために、臨床VTRを多く供覧する。		
【一般教育目標(GIO)】 1. 流暢性障害の全体像およびその下位症状の種類と症状特徴（特に非流暢性発話と心理的要因および環境要因）を理解する。 2. 流暢性障害の症状評価（診断的治療と鑑別診断）の方法と流暢性障害を有する人への評価・対応方法の違いを学修する。 3. 発話症状への治療的かわり方と流暢性障害を有する人への心理的援助について学修する。 4. 他の障害を合併する流暢性障害（合併症）の特徴と支援方法を理解する。 5. 流暢性障害を取り巻く環境要因の重要性を理解する		
【行動目標(SBO)】 1. 非流暢性発話の特徴を理解し、吃音を含めた種々の流暢性障害を説明できる。 2. 吃音症状と正常範囲の非流暢性発話を理解し、両者の違いに目を向けることができる。 3. 吃音検査法を理解し、実施手順を学習できる。 4. 吃音のある人および環境要因を評価し、適切な訓練や心理的援助のスキルを臨床に適用できる。 5. 他の障害を併せ持つ症状（獲得性吃音、クラタリングを含む）特徴を理解し、説明できる。		
【教科書・リザーブドブック】 講義資料を用意する。		
【参考書】 標準援護聴覚障害学 発声発語障害学第2版 監修 藤田代監修／編集 熊倉勇美・今井智子（医学書院） 吃音と就職 先輩から学ぶ上手に働くコツ 飯村大智（学苑社）		
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 定期試験（受講姿勢が含まれる）		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	- 講義に関するオリエンテーション - 流暢性障害の一般的知見	講義	「吃音症」に関する一般的な情報について、インターネット検索で調べ、簡単に整理しておく。	40分
2	流暢性障害の学際的概要および種類と特徴 歴史、ICF位置づけ、タイプ別の症状	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	30分
3	- 吃音症の原因論と発生メカニズム（諸説） 学際的知見と今後の方向性 - 幼児期の発話流暢性の発達機序と吃音	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	30分
4	他の障害を併発する吃音症の特徴 学際的知見と今後の方向性	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	30分
5	流暢性障害の評価・診断 一部音声サンプルの評価演習	講義 演習	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	30分
6	流暢性障害の治療（間接法と直接法）Ⅰ 環境調整法、流暢性形成法、吃音緩和法 統合法、その他、種々の治療法	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	30分
7	流暢性障害の治療（間接法と直接法）Ⅱ 種々の治療法について事例を通して触れる	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	30分
8	流暢性障害の心理的要因と環境要因 当事者を取り巻く地域社会の在り方 当事者の団体・組織の社会的活動および 法的根拠に基づく対応	講義	事前に配布する講義資料の該当部分に目を通しておく。	30分

【科目名】		小児聴覚障害学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s171	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 木曜以外の平日16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
言語聴覚士の国家試験受験に必要な科目である。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・聴覚検査の知識を有していること。 ・試験の答えは返却する。また、解答を示す。					
【講義概要】					
(目的)					
聴覚障害を持つ児の評価と支援について学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
(方法)					
主として配布資料を使用して講義を行います。					
【一般教育目標 (GIO)】					
聴覚障害を持つ児の評価方法、支援方法がわかる。					
【行動目標 (SBO)】					
・ 正常な聴能発達を知る。 ・ 聴覚障害児の発達上の課題を知る。 ・ 聴覚障害児の評価方法を知る。 ・ 聴覚障害児の指導方法と保護者への指導方法を知る。					
【教科書・リザーブドブック】					
指定しない					
【参考書】					
・ 中村公枝、城間将江、鈴木恵子 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 医学書院 ・ 山田弘幸 言語聴覚療法シリーズ6 改訂聴覚障害Ⅱ 臨床編 建帛社 ・ 船坂宗太郎 聴覚診断と聴覚補償 コロナ社					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・ 成績評価基準は本学学則規定のGAP制度に従う。 ・ 定期試験100%とする					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	聴覚障害とライフステージ	講義	配付資料	15分
2	聴能の発達と思考・言語の発達	講義	配付資料	15分
3	聴覚障害の疾患原因と発症時期	講義	配付資料	15分
4	小児聴覚障害の諸検査	講義	配付資料	15分
5	小児聴覚障害児の発達課題	講義	配付資料	15分
6	小児聴覚障害児の訓練・指導Ⅰ	講義	配付資料	15分
7	小児聴覚障害児の訓練・指導Ⅱ	講義	配付資料	15分
8	小児聴覚障害児の訓練・指導Ⅲ（親への指導）	講義	配付資料	15分

【科目名】		成人聴覚障害学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	s172	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 平日木曜以外の16：50～	
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
成人聴覚障害における各種評価、訓練法、援助方法、補償機器、関係法規、各ライフプランに応じた難聴の支援法などを学ぶ。 視覚聴覚二重障害についても、原因、評価、コミュニケーション法、支援法を学ぶ。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
・小テストを返却後、解答の解説を行います。 ・試験問題（再試験問題除く）は返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。					
【講義概要】					
(目的)					
成人聴覚障害に対して、言語聴覚士が行う評価方法及びコミュニケーション支援方法など総体的に理解を深めることを目的とする。聴覚障害の評価、特にオーディオグラムの読み方を学び、そこから得られる情報と社会的要因を考慮したうえでの問題点を考察する。また、聴覚障害の原因についての知識を広げるとともに、聴覚障害を持つ人の各種コミュニケーション方法、リハビリテーションについて学ぶ。さらに、ろう文化への理解を深め、同時に心理・社会的困難を理解する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
(方法)					
スライド、配布資料、教科書を使用しての講義が中心となります。					
【一般教育目標(GIO)】					
・成人聴覚障害の原因、問題、援助方法、関係法規について学ぶ。 ・オーディオグラムから各種疾患や障害、難聴のタイプなどを読み取ることができる。 ・ろう文化について理解を深める。					
【行動目標(SBO)】					
・成人聴覚障害の原因と問題について説明できる。 ・各疾患や難聴の程度、発症の時期などから、適切なコミュニケーション法を選択、説明できる。 ・オーディオグラムから、平均聴力、聴力型、難聴のタイプ、疾患の予測を行うことができる。 ・視覚聴覚二重障害について説明できる。 ・ろう文化について説明できる					
【教科書・リザーブドブック】					
藤田郁代監修、中村公枝・城間将江・鈴木恵子『標準言語聴覚障害学 聴覚障害第2版』医学書院（5,200円＋税）					
【参考書】					
山田弘幸・『改訂 聴覚障害Ⅱ－臨床編』建帛社，2008 年．¥2,625、 喜多村健・『言語聴覚士のための聴覚障害学』医歯薬出版，2002 年．¥4,200					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、記述式試験100％とする。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価 指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	成人聴覚障害とは何か 定義、分類、原因	講義	復習	30
2	難聴者のコミュニケーション方法 聴覚補償機器	講義	復習	30
3	オーディオグラムの読み方 伝音難聴 と感音難聴の違い/A-Bgap	講義	復習	30
4	オーディオグラムの読み方 平均聴力/聴力型/疾患別	講義	復習	30
5	関係法規	講義	復習	30
6	ろう文化	講義	復習	30
7	視覚聴覚二重障害	講義	復習	30
8	まとめ、討論 小テスト	講義	復習	30

【科目名】補聴器・人工内耳		【担当教員】大平 芳則	
【授業区分】専門科目	【授業コード】s173	(メールアドレス) ohdaira.yoshinori@kuas.ac.jp (オフィスアワー) 来学時	
【開講時期】後期	【選択必修】選択		
【単位数】2	【コマ数】15 コマ		
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) なし (受講のルールに関わる情報・予備知識) 補聴器と人工内耳について、仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識を身につける。 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 試験・レポートのフィードバック方法：小テスト、定期試験については解答例を示す。			
【講義概要】 (目的) 補聴器と人工内耳について、仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識を身につける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う (方法) 講義法による。			
【一般教育目標 (GIO)】 補聴器と人工内耳について、仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識を身につける。			
【行動目標 (SBO)】 補聴器と人工内耳について、仕組み、機能、適応、効果と限界について、基礎的な知識について述べることができる。			
【教科書・リザーブドブック】 プリントを配布する。			
【参考書】 1) 中村公枝、城間将江、鈴木恵子 編 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学」 医学書院 5200円＋税 2) 山田弘幸 編著 「言語聴覚療法シリーズ5 改定 聴覚障害Ⅰ―基礎編」 建帛社 2500円＋税 3) 中川雅文 監訳 「補聴器ハンドブック」 原著第2版 医歯薬出版 15000円＋税			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60	40						100
評価 指標	取り込む力・知識	60	40						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 補聴器概説：構造、機能、分類、耳栓	講義	講義内容の復習	30分
2	補聴器の構成部品： マイク、アンプ、イヤホン、電池	講義	講義内容の復習	30分
3	補聴器の構成部品： 耳栓（イヤモールド）の作成法と機能	講義	講義内容の復習	30分
4	補聴器の性能と測定： JISの用語、測定される性能と測定方法	講義	講義内容の復習	30分
5	補聴器の増幅： 線形増幅 非線形増幅と圧縮比（1）	講義	講義内容の復習	30分
6	補聴器の増幅： 非線形増幅と圧縮比（2）	講義	講義内容の復習	30分
7	イヤモールド： 彩型実習	実習	講義内容の復習	30分
8	イヤモールド： 彩型実習	実習	講義内容の復習	30分
9	補聴器のフィッティング（調整と適合）： 適応、機種選択、調整、適合評価	講義	講義内容の復習	30分
10	補聴器の両耳装用と保守・点検： 両耳装用の効果 保守と点検のしかた	講義	講義内容の復習	30分
11	補聴器の周辺機器と新しい機能： S/N比の改善、FMシステム、テレコイル（磁気 ループ）、赤外線システム、ハウリング抑制、雑	講義	講義内容の復習	30分
12	人工内耳概説： 構造としくみ、対象、人工内耳による聞こえの 回復（ビデオ視聴）	講義	講義内容の復習	30分
13	人工内耳の適応基準と評価： 成人および小児の適応基準、術前評価、術後評 価	講義	講義内容の復習	30分
14	人工内耳のマッピング（プログラミング）： パラメータ設定、T/Cレベル測定、マイク感度	講義	講義内容の復習	30分
15	人工内耳のその他の話題： 人工内耳の限界、テレメトリ、生活への影響、 auditory neuropathyと人工内耳	講義	講義内容の復習	30分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			50					50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 聴力検査の分類と検査音、記録用紙、閾値の決定 方法	講義	配付資料の復習	15分
2	純音聴力検査： 準備と予備検査	講義	配付資料の復習	15分
3	純音聴力検査： 本検査の実施手順、平均聴力	講義	配付資料の復習	15分
4	マスキング： 意義、方法	講義	配付資料の復習	15分
5	語音聴力検査： 語音了解閾値検査、語音弁別検査	講義	配付資料の復習	15分
6	閾値を表す単位： dBSPLとdBHL	講義	配付資料の復習	15分
7	インピーダンスオージオメトリ： ティンパノメトリ、耳小骨筋反射検査	講義	配付資料の復習	15分
8	内耳機能検査： リクルートメント現象 SISI検査、自記オージオメトリ	講義	配付資料の復習	15分
9	内耳機能検査： ABLB、メッツテスト	講義	配付資料の復習	15分
10	他覚的聴力検査： 聴性脳幹反応（ABR）、蝸電図	講義	配付資料の復習	15分
11	他覚的聴力検査： 耳音響放射（OAE）、聴性定常反応（ASSR）	講義	配付資料の復習	15分
12	乳幼児聴力検査： BOA、COR、遊戯聴力検査	講義	配付資料の復習	15分
13	スクリーニング検査： 3歳児健診、新生児聴覚スクリーニング	講義	配付資料の復習	15分
14	補聴器適合検査	講義	配付資料の復習	15分
15	耳鳴検査 耳管機能検査	講義	配付資料の復習	15分

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			50					50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1～2	ガイダンス 聴力検査とは：講義	講義	復習	20分
3～5	純音聴力検査：講義	講義	復習	20分
6～8	純音聴力検査： 実習	実習	復習	20分
9～11	語音聴力検査：講義	講義	復習	20分
11～13	語音聴力検査： 実習	実習	復習	20分
14～15	インピーダンスオージオメトリ：講義	講義	復習	20分
16～17	インピーダンスオージオメトリ： 実習	実習	復習	20分
18～19	自記オージオメトリ：講義	講義	復習	20分
20～21	自記オージオメトリ：実習	実習	復習	21分
22～23	まとめ、レポート作成	講義、実習	復習	22分